

(海外)・国内) 出張報告書 (学生用)

2016年 8月 23日提出

氏名	石井 千尋
所属	毒性学教室
学年	博士課程 3年
出張先	・ Cornell University ・ Greek Peak Mountain Resort
出張期間	2016/7/28~8/9
目的	65th International Conference of the Wildlife Disease Association に参加するため。また、Cornell University の Janet L. Swanson Wildlife Health Center を訪問するため。

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

今回の出張では、まず Ithaca のコーネル大学野生動物センター(Janet L. Swanson Wildlife Health Center)を訪問し、その後 Cortland の Greek Peak Mountain Resort で開催された 65th International Conference of the Wildlife Disease Association に参加した。

まず度重なる飛行機遅延により現地到着が翌日になり、その日にコーネル大学訪問の予定を入れていたため当初の予定を変更しなければならなかった。しかしながらコーネル大学野生動物センターの Dr. Noha が非常に親切に対応してくださり、無事にコーネル大学を訪問することができた。Dr. Noha とは今年のリーディングセミナーにおける講演をお願いした経緯で連絡をとっており、今回の学会会場がコーネル大学のある Ithaca に近かったために野生動物センターを見学させてもらえないかお願いしたところ、快く受け入れてくださり訪問が叶った。

コーネル大学では Dr. Noha の案内のもと、野生動物センターと動物病院を訪問した。野生動物センターでは、弾丸で撃たれたカモメのレントゲン撮影・画像診断、外傷を負ったカメの縫合、生後直後のオポッサムへの強制給餌などを見学した。Dr. Noha を筆頭に専門医やレジデントが効率的に仕事をこなし、インターンや学生にも親身に指導をしている姿が印象的だった。センターの獣医師は片道 1 時間半ほどの距離にあるシラキューズの Rosamond Gifford Zoo でも治療も行っているとのことで、動物園から電話が来ればかけつける体制であった。インターンやインターン希望で見学に来ている学生、実習中のコーネル大学の学生とも話をすることができ、大変有意義な時間であった。その後キャンパス内を車で案内してくださり、最後に動物病院を

訪問した。コーネル大学の動物病院は大変広く、専門制度の整備が進んでおり、圧倒された。

コーネル大学を訪問した翌日、学会会場であるコートランドに移動した。学会が開かれた **Greek Peak Mountain Resort** は大変自然豊かなところにあるスキーリゾート地で、ウサギ、リス、鳥類など様々な野生動物が見られる場所であった。しかしながらコートランド街中から会場までの公共交通機関が全くないこと、会場から徒歩圏内の宿泊施設は 1 件のリゾートホテルしかないこと、など不便が多く参加申込



写真 1. 学会会場

時は不安が大きかった。結果としては他の参加者達とそのホテルでルームシェアし、活発に交流することができた。ルームシェアをしたアメリカの動物園獣医師とオランダの大学院生とも知り合うことができたのは良い機会であった。

学会発表は野生動物（哺乳類から鳥類・爬虫類・両生類・魚類まで）の治療から疫学的なものまで野生動物に関する様々な内容であり、多くの野生動物獣医師、獣医学生と話すことができた。野生動物医学関連の国際学会に参加したのは始めてで、同じような興味を持った様々な国の人と話をするのは非常に刺激的であった。今回は知合いが全くいない学会だったことや場所の不便さから、不安や緊張があつての参加だったが、学会初日から有意義な時間を過ごすことができた。

学会参加者には鳥類保全に関わっている人も多く、私自身発表した鳥類の腎障害マーカーに関する話にも興味を持ってもらい、少ないポスター時間でも 7、8 人とディスカッションができた。また発表内容に興味を持った研究者や、追加データが出た際に結果を送って欲しいと言ってくれた研究者もいて、非常に励みになった。私のもう一つの研究テーマである鳥類の鉛中毒に関する研究や、他にも殺鼠剤の被害など毒性関係の研究発表もあり、他国での現状を知ることができたことも勉強になった。学会期間中は発表が朝 8 時から夜 18 時までで、その後は毎日 22 時まで学生 BBQ や全体の懇親会など毎日様々な交流の機会が企画され、たくさんの研究者と交流を深めることができた。以前から興味があったタフツ大学野生動物センターの獣医師 Dr. Florina にも偶然お会いし話をするのができ、今回の出張は本当に実りの多いものだった。

また学会前と開催中の2回に渡り様々なワークショップが開催された。私が最初に選択したワークショップ(Field Techniques for Wildlife Research and Disease Surveillance)では、会場近くの丘で実際にシカの死体を用いてフィールドでの剖検方法を学んだ他、哺乳類・鳥類用の捕獲方法についてデモンストレーションを交えながら勉強し、また様々なタイプのラジオカラーを使っての追跡調査方法について学んだ。もう一つのワークショップ(Lab of Ornithology Tour)ではコーネル大学の



写真2. シカ捕獲用のトラップ

Ornithology Lab を訪問し、鳥類に関する研究室、実験室の見学や研究内容について話を聞いた。こちらはメインキャンパスから少し離れたところに位置し、林の中にあるため様々な鳥類種が訪れる。外にはウッドチップで敷きつめられたバードウォッチング用の通路もあり、一般の方々の憩いの場にもなっていた。

今回の出張全体を通して、海外における野生動物医学に触れることができ、大変濃厚で有意義な滞在となった。最後に、毒性学教室の皆様、発表指導をしてくださったMike先生、ならびにご支援いただいた国際連携推進室・リーディング大学院担当の方々に深く感謝申し上げます。

指導教員確認欄	所属・職・氏名： 毒性学教室・教授・石塚真由美 印
---------	---

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当
内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp